B 156　女子短大生の自己概念と衣服デザインの嗜好について

相愛女子短大　○藤田久子

目的　衣服の嗜好には多くの因子が作用しているが、その一つに自己概念がある。個人は現実の自分自身について、あるいは自分の身体についてのイメージをもっており、更に理想とするそれらのイメージをも持っている。衣服はそれらのイメージの延長線上にあり、個人によって好まれる、あるいは嫌われる衣服は、その人の自己に関するイメージと関連するものと考えられる。ここでは、自己および衣服を共通に評価する尺度を作成し、好まれる衣服、嫌われる衣服のイメージと理想自己、現実自己のイメージの関連性について検討した。

方法　理想自己、現実自己及び六体のデザイン画のイメージを測定する共通の形容詞対25を選んだ。これらの形容詞対の7段階評定尺度を用い、女子短大生150名を対象として調査を行った。次に各刺戟に対する評価点の平均値を求め、様式、時代性、情緒、綜合に分けてプロフィールを作成した。そのプロフィールから各刺戟の類似度を類似指数$R_{(ij)}=(1-\frac{D}{2})\times 100$から求めた。ここで$D$は$\sqrt{\frac{1}{n}d^2_{AB}}$である。

結果　類似指数$R$から様式、時代、情緒ともに理想自己と好きな衣服のイメージに高い類似性があり、次に現実自己と好きな衣服のイメージに類似性が存在していることが認められた。なお、様式、時代、情緒を綜合したものについても同じ結果を得た。理想自己と嫌いな衣服のイメージ、現実自己と嫌いな衣服のイメージのものは、様式、時代、情緒、綜合すべてに類似性は低く、また期待されるように好きな衣服のイメージと嫌いな衣服のイメージには、どの因子とも類似性は小さく異質であることがわかった。